

# 高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

指定文化財(建造物)

きゅうくらしきてんもんだい・かんそくしつ

旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室

新高総早  
見梁社島  
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠  
掛原口庄岡  
町市市町市



場所

倉敷市福田町古新田



時代

大正時代



指定年月日

平成13(2001)年  
8月28日



所有

倉敷市



見学

見学可

(※イベント時のみ内部見学可)



## この建造物について

この旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室は、大正15(1926)年に原澄治(倉敷市名誉市民)の資力と京都帝国大学教授山本一清の支援により、日本で最初の民間天文台として建てられたもので、内部には当時、我が国では最大級となる英国ホルランド社製の口径32cmの天体望遠鏡(倉敷市指定重要文化財)が設置され、広く一般に開放されてきました。

また、長年にわたり倉敷天文台長を務められ、生涯に彗星12個、新星11個を発見した世界的な天文学家・本田實(倉敷市名誉市民)も、この観測室で星の観測を行いました。

観測室の規模は、東西4.4m、南北5.3mで、1.1mのレンガ造りの基礎の上に、木造の軸部が乗っています。屋根は切妻、鉄板張りで、室内の歯車のついたハンドルの回転させることにより、屋根が破風の角度に沿って東西方向に滑り降りるように開くという非常に珍しい構造もっており、科学史上においても貴重な建物であることから、平成13(2001)年8月28日に国の登録有形文化財に登録されました。

倉敷市では、本田實生誕100年となる平成25(2013)年に、この観測室を公益財団法人倉敷天文台から譲り受け、創立当時に近い姿で、それまでであった中央二丁目19-10から、ライフパーク倉敷に移築・復元を行いました。